

会 議 録

1 会議名

令和4年度第4回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

日帰り・宿泊温浴施設の今後の方向性の検討について（公開）

【協議事項】

「地域活性化の方向性」の作成について（公開）

3 開催日時

令和4年8月4日（木）午後6時30分から午後7時55分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、安達麻美、齊藤徳夫、
佐藤寿美子、佐藤峰生、田村 隆、平野コトミ、水嶋豊秋
（欠席者3名）

・行政改革推進課： 手塚課長、島田副課長

・施設経営管理室： 小関係長

・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長

8 発言の内容

【中村センター長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：田村委員に依頼

議題【報告事項】日帰り・宿泊温泉施設の今後の方向性の検討について、担当課へ説明を求める。

【行政改革推進課：手塚課長】

- ・資料No.1 「日帰り・宿泊温泉施設の今後の方向性の検討について」
- ・参考資料1 「第4次公の施設の適正配置計画における『引き続き協議』とした日帰り・宿泊温泉施設について」
- ・参考資料2 に基づき説明

【坪田会長】

皆さんがこの場に来て温泉施設のみ状況を説明してくれるが、それを利用するにあたって、西谷内から中ノ俣に抜ける道や、国道から上がって行く一般県道の状況をどう感じているのか。収入源を増やすためのアクセス的なもの、付属する部分が欠けているように思っている。若干、温泉施設からは外れるかもしれないが、温泉施設を利用するためのアクセスに関わる部分について、行政改革推進課、施設経営管理室として、何か考えはあるのか。それは全く管轄外なのか。

【行政改革推進課：手塚課長】

指定管理者や施設経営管理室において利用促進の仕掛けなどを始め、営業努力を行っている。しかしながら、人口が減っていく中、また、昨今のコロナ禍の影響により、利用者数がなかなか伸びない現状を打開できない状況にある。今回の民間需要調査では、様々な民間のノウハウをお持ちの方々から譲渡のほか利用促進に向けたアイデアを出していただき、その提案を踏まえ、皆さんとともに、改善につなげていきたいと考えている。

また、道路の整備については、市としては、生活道路として利便性や安全性の観点から道路整備計画において、計画的に取り組んでいるところである。

【坪田会長】

くわどり湯ったり村は、経営の改善に向けて凄く努力している。確かに上越市の人口は減っているが、先ほど言った西谷内から中ノ俣まで抜ける道路であれば、上越市の利用者というよりも長野県の方が利用しやすい。そして、既存のルートは富山県の方が利用しやすくなっている。他府県からの来訪者を取り入れることによって、それに付随す

る周辺の経済効果は当然出てくると思う。お聞きした中では、完全にそれをないがしろにしたわけではないということなので、くわどり湯ったり村がある程度いい方向に向けば、この地域の活性化に繋がるのでよろしくお願ひしたい。

【行政改革推進課：手塚課長】

宿泊施設は、商圈や客層を見極めながら運営する必要があると認識している。第三セクターの方々も非常に営業努力をされているが、より営業力の高い企業に運営を担ってもらうことができれば最善ではないかと考えている。今後、調査を進めていく中で、様々な事業者から提案いただきたいと考えており、逐次情報を皆さんにフィードバックしていきたい。

【佐藤峰生委員】

くわどり湯ったり村単独で、利用人口を増やすことは現実的に難しい部分がある。今、この地域協議会の中でも地元の宝を掘り起こそうということで、この後、協議することになっているが、くわどり湯ったり村に単独でお客さんが来るのではなく、この地域に訪れた人がくわどり湯ったり村でお昼を食べたり泊まったりという、地域全体での周遊人口を増やすことがあると思う。それと、どのくらいの範囲まで考えるかだが、うみがたりを見に来た人がくわどり湯ったり村を利用するイメージがわからないと思うが、それを利用してもらうにはどうするか。長野県のお客さんがうみがたりをみて、谷浜・桑取区に来てもらうという流れを作ることが必要になってくると思う。そういう広い範囲で考えた時に旅行のプランとして、うみがたりを訪れた後、桑取地域の里神楽を見るなど、どんなプランを考えるかということである。あとで皆さんと考えるが、人の流れを谷浜・桑取区に持ってくるための発想を考える中で、当然アクセスの問題も出てくると思う。周遊するコースになっていないのでそれをどうするか。地元の魅力をどのように発信し、人の流れが谷浜・桑取区に来るようにするか。海水浴に来た人は、日帰りの人や民宿に泊まる人もいるかと思うが、2日目にこの地域に来てもらうにはどうするか。そういう発想で私たちも検討してみたいと思っている。

【行政改革推進課：手塚課長】

地域協議会において、地域の宝をどうするか議論を進めていただく中で、今は宿泊施設だが、もしかするとこの地域を盛り上げるためには、今のままではなく違う形で利用するような考え方もあるのかもしれない。温浴施設にこだわらずに交流施設に生まれ変わらせることも最終的にはあるのかもしれない。その部分については、皆さん方と私た

ちで十分に議論した中で、地域のために何を残せばいいのかとその施設が今後どのように生まれ変われば、最も地域が輝くのかを探っていく必要があると考えている。今、建設的な意見をいただき大変嬉しく思う。引き続き、皆さんで地域の活力、活性化に向けて、議論を進めてもらいたいと思う。

【田村委員】

民間需要調査はどのように実施するのか。具体的なものは決めているのか。

【行政改革推進課：手塚課長】

サウンディング調査は、市が主体となって行うこととなる。また、あらかじめ特定の企業を決め打ちするのではなく、広く事業者から提案いただくこととなる。

今回の調査は、あくまでも民間事業者からアイデアを提案していただくために行うものであり、提案いただいた内容を踏まえ、今後、地域と協議して方向性を決定していくこととなる。調査結果により、一方的に施設の方向性が決定するものではない点をご理解いただきたい。

【施設経営管理室：小関係長】

民間に投げかけて、この返しがあつたからすぐに飛びつくということではない。あくまでも、こういう提案があつたというまでの調査である。今回は、これで終わりである。くわどり湯ったり村の施設の将来について、提案があつたものを、それを皆さんと一緒に協議していきたい。その中で、例えば、福祉施設にしてほしい、病院が来る、教育施設が来るなどいろいろな提案があるが、そこを市が決めることは一切ない。あくまでも、くわどり湯ったり村の温浴機能も選択肢の1つだし、この地域にどういった提案があつて、何を選ぶのかを一緒に皆さんと今後協議をして決めていきたい。来た話に対してすぐにそれにするというものではない。あくまでも今回は、民間業者からの提案を一度市が受け止めるということでご理解いただきたい。それは、行政改革推進課と地域の皆さんと一緒に具体的な話を示した中で、決めていく材料を民間から頂きたいということで、あくまでも我々は、くわどり湯ったり村を次の何かに変えるために提案を受けるわけではない。むしろ、施設経営管理室としては温浴機能の中に付加価値をつけて温浴をやりたい。通年観光の中のパーツの1つとして、もっと外に売り出せるという提案をいただきたいと思う。

【佐藤寿美子委員】

先日、地域でくわどり湯ったり村の話をしたのだが、その時に、前に今回のような話

があったが、なくなったという意見がでた。だから、今、説明を聞いても、本当にやってくれるのかという思いしかない。

【行政改革推進課：手塚課長】

令和元年の時に、同様の調査を行っている。その時には、コロナの影響により協議が進まなかった経緯がある。

【佐藤寿美子委員】

その前である。

【行政改革推進課：手塚課長】

サウンディング調査自体は、令和元年である。

【佐藤寿美子委員】

調査をされた話はいつだったかは忘れたが、そういった話し合いがあった。湯ったり村に行くと、あの話はどうなったのかといった話を聞くことがあるので、本当に地域の話聞いてくれるのか疑問である。それを話す機会もないのが現状なので、そういう機会を作っていただければ意見もあると思うが、それが無いから結局あやふやで終わってしまう。

【行政改革推進課：手塚課長】

適正配置計画において、引き続き協議としているので、まずは、サウンディング調査により、民間需要の状況を調査する。先ほど、佐藤峰生委員からも話があったが、皆さんも地域として将来どのように地域の活性化に向けて取り組むのかを議論していただき、それらの意見も踏まえながら皆で協議をしていきたい。場合によっては、地域協議会だけではなく関連する団体の皆さんとも話し合いの場を持ちたいと思う。

【田村委員】

佐藤寿美子委員が言われたのは、以前、何かこういった話があったということか。具体的にいつか。

【佐藤寿美子委員】

覚えていないが現地調査ではなく、くわどり湯ったり村についてどうしたらよいかという話し合いがあったと思う。

【行政改革推進課：手塚課長】

適正配置の話ではなく、第3セクターの運営か施設の運営に関する話し合いの場だったのではないか。建物をどうするかという話ではないのではないか。有効活用や誘客を

どうすればよいかという話ではないか。

【田村委員】

同じことである。過去にそういった意見が出ていても、結局、まだ話がまとまっていないというか、起承転結がなされていないのではないかと。

【行政改革推進課：手塚課長】

少なくとも、今回の温浴施設の適正配置については、今、ご指摘のとおりで施設の方向性が出されていない状況である。

【水嶋委員】

民間需要での調査ということで、民間に投げるような感じになるのではないかと。今までの間に行政として方向性を示してこなかったために、こうなっているのではないかと。何十年もあの施設があるわけで、その中で行政が全くアイデアを出していないのではないかと。そして、どうにもならなくなると民間に任せようということではないかと。もっと自分たちでアイデアを横の連携を使って出したほうがいいのではないかと。市長が話していたが、「温浴施設では人口は増えない」とはっきり言っている。もう、あの言い方だと温浴施設はいらないということではないかと。もっと行政自体が方向性を出して、それを皆で話すということであれば良いが、自分たちの具合が悪くなると民間に任せるという投げやりな言い方になっていると思う。

【行政改革推進課：手塚課長】

ご指摘のとおり、公の施設として市が設置し、所有している建物である。運営については、民間のノウハウをいかすため第3セクターに運営を担っていただいているが、利用者が増えていないのが現状である。なかなか打開策がない中で、民間業者から経営ノウハウなどのお知恵を拝借しながら、また、地域の皆様と今後のありようを方向付けしながら進めていきたいと思っている。丸投げをすとか、撤退をすとかの思いではないということをご理解いただきたい。また、すぐに建物を廃止するという議論を進めているわけではなく、民間事業者から様々な提案を受けながら今後の活性化の議論を踏まえより良い方向性を探っていきたいと考えている。今後、議論の場を設けるのでお力添えをお願いしたいと思っている。

【水嶋委員】

当然、大変な負担になってくるので、取り組む場合の心構えとして本当に必要かどうか見極めながら、市民に負担がくることがないようにしてほしい。

【行政改革推進課：手塚課長】

おっしゃるとおりで、建物自体も老朽化が進んでおり、今後を見据え施設の将来を検討する時期に来ている。地域にとって大切な施設である一方で、大切な税金をそこに投入し続けていいのかという議論もある。子どもたちに過度な負担を強いることがないように、適正配置の考えを踏まえ、皆さんと協議をして理解を得ながら進めていきたい。

【田村委員】

具体的にどういったところに声を掛けるか決まっているのか。

【行政改革推進課：手塚課長】

基本的には、様々な経営情報を持っている金融機関や関連するような企業にお声がけしながら進めていきたいと思っている。

【坪田会長】

くわどり湯ったり村は地域のシンボルと言っても過言ではない。それがあからこそ活性化に結びついていく。地域協議会や地元住民と話していく機会をいただければありがたい。

【行政改革推進課：手塚課長】

まさに議論をつくすことが、今回の趣旨であり、資料を説明させていただいた。今後も、何度かお邪魔して現状や今後の方向性について話し合いの場を持ちたいと思っている。

【坪田会長】

他に質疑を求めるがなし。

— 行政改革推進課、施設経営管理室 退室 —

【坪田会長】

次に【協議事項】「地域活性化の方向性」の作成について事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

・資料No.2「地域活性化の方向性の検討について」に基づき説明

【坪田会長】

前回の欠席者に地域の魅力等に関する意見を求める。

【安達委員】

歴史・文化では、谷浜地域づくり協議会のガイドマップは、年間のイベントスケジュールでいつ、どの地域で実施しているかがよくわかるものなので、多くの人に見に来て

いただき、参加していただきたい。

自然では、小・中学校の鮭の野外学習を続けてほしい。魚の森づくり活動なども小・中学生が参加でき、効果がある。地域を知って地域に愛着を持ってもらうことを子どもの頃から経験できたほうが良いと思う。

観光は、たにはま公園だと思う。先日行ってみて思ったのが、やはり寂しい印象である。使ってもらうためにはどうしたらよいかを考える必要があると思う。

【田村委員】

私の甥と姪は東京で生活をしているが、こっちに帰ってきたくないと言っている。理由を聞くと雪が降るから嫌だという。確かに雪が多く降って交通が遮断されることが年に何回かある。雪を楽しんでいると思う。小・中学校の時に外で雪遊びやスキーをしたと思うが、例えば、くわどり湯ったり村の近辺でスノーシュー散策することも考えられないか。

【坪田会長】

皆さんの意見を含めて、この内容を踏まえた中で地域の魅力や特性、次世代に残したいもの等を活かし、地域をどうしていきたいか意見を求める。

【佐藤峰生委員】

資料2枚目に、地域内外の人に魅力をPRするとあるが、その手段を考えたらどうか。例えば、ガイドマップは市内の主な施設に置いてある。訪れた人がそれを手に取る。それで今は終わっている。もっと極端に言えば、日本全国、海外に向けて発信するにはどうするか。

【佐藤寿美子委員】

今、インスタグラムを利用しているが、旧学校の石碑や地域の活動の様子を載せているので見てほしい。

【金森副会長】

資料の2枚目に例がいくつか挙がっているが、このとおりだと思う。次世代に残したいもの、どうしていきたいかだが、私は城ヶ峰砦を残したい。今年、3回ほど登ってきたし、整備活動にも参加している。この城ヶ峰砦をどうしたらよいかということで、目的は、谷浜・桑取区の歴史的文化遺産を活かしていく、地元、或いは、地域外の多くの方から来て見て、感じていただきたい。そのためにどうしたらよいか、1つは、来訪者のデータをきちんとつかむ。今、私が城ヶ峰砦に行き来し、知らない人にたまに会って

挨拶をしたりしているが、その人たちがここを見てどう思ったのか、何が良くて何が不満だったのか。そういうものが全然出されていない。そういうものを集めることによって、どこの地域の人か、年齢はいくつくらいの人か、男性か女性か。来て見てどう感じたか。要望事項はなにか。そういうものを出していただく場所を作って、その要望に沿うことができるものがあれば、そこから取り組んでいただいて、また、来訪者が来てみたらあそこが良くなっていたと感じてもらえる。先ほどSNSの話が出たが、私は効果的なのは、人と人が情報を交換することと思う。目で見てだけではなく、口伝えの情報は一番有効ではないかと思うので、アンケートみたいなものを一つの活動の導火線として実施してもよいのではないか。

それから、来訪者の機会を増やすための企画も必要だと思う。謙信公祭の狼煙上げなど、情報を回覧で流したりしているが、例えば、春はカタクリの花、夏は新緑の景色、秋は紅葉狩り等、季節ごとにそれぞれ魅力があると思うので、今まで実施してきている事業はもちろんだが、そういう中で来た人から春の俳句、夏の俳句、秋の俳句を読んでもらう。それを春の句を募集した後、夏の句を募集する時に春の句の表彰式をして粗品などを渡せば、次の季節の時にも来てくれる。春から夏、夏から秋、冬は厳しいと思うが、そういうつながりを繰り返していけば、城ヶ峰砦の魅力が拡散していくのではないか。アクセスとしては、中桑取からも来られるが、駐車場の問題もあるので、たにはま公園からの登山通路を開放していただければ、車で来ても駐車場の心配もいらない。そういう利便性を図ることも必要かと思う。

【佐藤峰生委員】

先ほど、くわどり湯ったり村の存続に関連して、地域に人が来てもらう、呼び込むにはどうするかという話をしたが、そのためには谷浜・桑取区はこんなによい所だと皆さんから認識してもらわないといけない。PRするにはどうするか。具体的なPRの方法を考えてそれを展開していくことが必要になってくる。その手段としてSNSという話があった。人と人との交流、人伝ても手段としてある。いずれにしても、谷浜・桑取に生活している人たちだけではなく、ここをふるさとにしている人は、日本全国にたくさんいる。海外に行っている人もいる。その人たちにどのようにして、ふるさとの魅力をもう一度感じてもらうかだと思う。そのために同窓会組織は横と縦がある。横は同級生、縦は同窓生である。そのネットワークをいかに組み合わせしていくか。私の卒業年度で地元に残っている人がいる。各年度で一人か二人は地元に残っている。その人たちが集ま

れば縦の組織になる。例えば、その人たちが集まって同窓会をする。その時に昔話をし、必ずくわどり湯ったり村に泊まる。それを何回か行えば、利用客は増えるか。それは、ただ、1回来てもらっただけで終わりではなく、土産を持って帰ってもらう。この地区には、こんなお宝があるといった土産話を持って帰ってもらう。その話を自分の関係者に広げてもらう。どうしてもふるさとに帰ることができない人は、ふるさと納税で協力してもらう。ふるさとという部分のつながりをどのようにして広くしていくか。最初は1本のものが段々束になる。その束を引っ張る。引っ張る時に引っ張る人が少なければ駄目である。

地域の町内会で行事をするときに人も少なくなって、行事をするのが大変だという話がある。その町内ごとの行事を一定のブロックにして、ある程度、行事そのものを運営できるような組織体にして、例えば、私の所であれば、五ヶ浦で有間川の行事をやる。そうすると五ヶ浦という引っ張り手が集まっているので引っ張る。こういうことが大事だと思う。

私の意見に対して、意見を求める。

【坪田会長】

同窓会の名簿は広める一つの術かもしれない。今は、過疎地だと言っているが、昔は、桑取小学校、桑取中学校、長浜小学校、高住小学校も有ったので、今でこそ、10数人かもしれないが、そこを卒業した人は相当数いるわけである。その人たちにアピールするだけでも、相当な力になる。やはり、盆暮れは自分の生誕地があれば、何年かに1回くらいは訪れると思う。絶対に帰ってきたくないとと言っても、一時的に来る場合もある。その時にガイドマップなどを見ながら、語り、思い浮かべるものが1つでも2つでもあると思うので、そういうものを取り上げて、広げるのも1つの手かと思う。協議は来月も続けていく。人によって思いも違うが、ぜひ話してもらいたい。

【田村委員】

ガイドマップに載っている場所について、最寄り駅からの時間が記載されていない。あと、城ヶ峰砦はたにはま公園から何分かかかるかなど記載されていればよい。

【佐藤峰生委員】

このマップはスペースの関係で仕方なかった。以前にサブマップ作成の提案をした。その施設の説明や距離などを記載したサブマップがあれば、より優しい案内になると思う。人が集まる仕組みができれば、それも必要になるのではないか。

【坪田会長】

一つ一つ話していけば色々と話が広がる。週末になるとたにはま公園に大勢の人が来るので、大きな看板を作ってその人達にPRすることもできるのではないかな。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

- ・次回協議会：9月7日（水）午後6時30分から

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。